



2025

学校だより **本荘** *Smile*

令和7年度 第34号
令和7年12月22日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

本荘小3回目の秋祭りも大盛況でした。地域に開かれた学校としての本荘小とは。



新年あけましておめでとうございます。本来ならば、本日の始業式の様子からスタートする学校だよりですが、2学期の積み残しがありますので、始業式はまた後日お伝えします。

この号もHPにアップいたしますので、ぜひ、カラーでご覧ください。令和7年度本荘校区秋祭りのグランドフィナーレです。きれいなシャボン玉が舞い散る締めくくりとなりました。今年度で秋祭りになってから3回目なる催しです。こどもたちも大変楽しみにしていました。

例年のように、本荘太鼓をオープニングとしてスタートしました。今年度は150周年関連の行事が目白押しでしたが、この秋祭りも創立記念式典のイベントと

しての意味合いもありました。ですので、これからの本荘小をイメージするような明るく楽しいお祭りとなっていました。地域の方々も大変好意的に参加してくださり、ひょっとこ踊りや天草ハイヤ踊り等、大変な盛り上がりを見せていました。また、こどもたちが楽しみにしていた射的やキッチンカーも大人気でした。

校長としてその様子を見ながら、やっぱりこれからの学校は地域に開かれた学校でなければならないなあと、感慨深く考えていました。

よく地域に開かれた学校といえます。教育関係者、特に校長先生がよく使う言葉です。しかし、意外と学校関係者以外の方には縁遠い言葉です。どういうイメージなのでしょう。か。(裏面に続きます)

「地域に開かれた学校」とは、学校が教育活動の情報を積極的に発信し、地域住民や保護者と連携・協力しながら、地域全体で子どもを育てる仕組みを指します。2025年現在、文部科学省はこれをさらに進めた「地域とともにある学校づくり」を推進しており、以下の2つの取組みが柱となっています。

取組みの一つ目は、運営面の取組みです。代表的なものが：コミュニティ・スクールです。このコミュニティ・スクールもなじみのない言葉なのですが、簡単に言うと、学校運営協議会を設置した学校のことです。保護者や地域住民が学校運営に参画し、校長が作成する学校運営の基本方針を承認したり、教育課題について協議したりするのです。

次に活動面の取組みです。例えば、地域学校協働活動というものがあります。地域住民がボランティア等として学校を支援する活動です。登下校の見守り、放課後学習支援、環境整備、ゲストティーチャーとしての授業参画などが含まれます。そのメリットとしては、教育の質が

向上するということです。地域の多様な人材や資源を授業に活用できます。また、教員の負担を減らすこともできます。地域住民が活動をサポートすることで、教員が授業準備などに集中しやすくなります。加えて、地域の活性化にもつながります。学校が核となり、多世代交流や地域コミュニティの維持につながります。

と、ここまで「地域に開かれた学校」というものについて述べてきましたが、本荘小学校はまさに、その典型例であると言っても過言ではないでしょう。校長のひいき目もあるかもしれませんが笑。しかし、本荘小では、先生たちも、保護者の方々も地域の方々も、みんな全力で「こどものために」一所懸命になっていただいています。学校運営協議会とか地域学校協働活動といった難しい名前をつけなくても、ちゃんとやっているのです。

改めて、すばらしい学校に勤めることができよかったなあと考えた校長先生でした。

そんなことを考えていたら、本荘小の秋祭りは、あっという間に過ぎていったのでした。（校長）

校長先生の虫眼鏡 「秋祭りはみんなで歌おう！」

今年度の秋祭りは、のど自慢！カラオケ大会が目玉の一つでした。みんな楽しく歌いましたね。



150周年実行委員長の雄姿



みんなで歌うも楽し



防犯協会長さんはとてもお上手



まわりのこどもたちも熱唱



家族のきずなを感じます



卒業生も歌ってくれました